

ヒルフェ通信(11月号) ✿そっと寄り添いやさしくサポート✿

「公益社団法人成年後見支援センターヒルフェ」は東京都行政書士会が社会貢献の一環として設立した法人です。



◆武鷹地区無料市民セミナーが終了いたしました

10月6日、武鷹地区市民セミナー「私らしく生きていくために」～今のうちに知っておきたい成年後見制度～が三鷹駅前コミュニティセンターにおいて開催されました。

常住理事長の挨拶から始まり、第1部では「認知症とともによりよく生きる」と題し、のぞみメモリークリニック院長 木之下徹先生が講師となり、医療現場から見える認知症予防の視点と問題点を挙げた上で、認知症とともに希望のある暮らしをするための心得や、クリニックでの独自の取り組みについてお話いただきました。第2部では三鷹駅周辺地域包括支援センターの市村朋子主任介護支援専門員が講師となり、当センターの役割及び支援内容について分かりやすくご説明いただきました。

第3部では「成年後見お役立ちミニセミナー」と題し、佐々木正彦専務理事が講師となり、制度の概要及び利用の注意点について解説されました。また、配布資料『みちるべ』の活用方法を具体的事例を交え、本人の意思を確認する必要性について説明されました。セミナー終了後の相談会への申込みも有り、アンケート結果では「とても興味深い内容だった」「参考になった」「今後のセミナーも参加したい」等、概ね満足の意見が大半となり、盛況のうちに終了いたしました。



◆中央地区 講座参加レポート

10月3日、中央地区にて、江尻会員が講師となって開催された、地元の日本橋地域包括支援センター(日本橋おとしより相談センター)主催による福祉講座に参加して参りました。これまで、弁護士・司法書士(リーガル)の独占枠だった地元地域包括の福祉講座に、行政書士が初めて講師となったという、都心地区！では画期的な出来事でした。

司会者の紹介によれば、毎週、地元で行われている「日本橋サロン」に江尻会員がほとんど毎回、ボランティアで参加されているご縁によるものとか。そのためか、会場は参加者41名で埋まりました。

テーマは「終活を始めて生き生きとした毎日を」で、遺言と任意後見を中心としたお話し。最後にヒルフェの『みちるべ』ノートを使い、これからの事を少しずつでも書いてみましょう、と、江尻会員のにこやかな語りかけ。ノート記載用にヒルフェの電話番号も入った『みちるべえんぴつ』つきです。江尻会員も相当時間をかけて準備されたようで、焦点を絞り、分かり易い語り口での話し振りが好印象でした。(ブロッコリー結核 直橋 祥)

◆東京都消費生活総合センターの啓発イベントに参加

9月28日、東京都消費生活総合センターの「悪質商法被害防止キャンペーン」の一環として開催されたイベントに、ヒルフェ広報も参加してまいりました。場所は飯田橋、東京都消費生活総合センターの所在地でもあるセントラルプラザ内の商業施設ラムラの通路、商業施設の利用者をはじめ、JRとメトロの乗り換え客など、通行量の多い場所です。暑いぐらいの晴天に恵まれた中、ゆるキャラたち(カモかも、サギだもん)とともに、通行する皆さんに資料等をお渡しするなどの啓発活動を行いました。

中には積極的に資料をもらいに来てくださる方、ご自身が悪質商法にあわれた経験などを話していかれる方もおられて、あらためて身近にそのようなことがあることを感じました。成年後見、特に任意後見は悪質商法への対策としては万全ではないかもしれませんが、ご自分の将来に対し、危機感をもって備えを考えることは、被害予防の大きな一助になるのではないのでしょうか。

今後いろいろな関係諸機関と、いろいろな形での交流を通じ、連携を深められる活動を行って参りたいと思います。

